

素晴らしい須走を知りたい!

## 「素晴らしい隊」養成講座 第4回講座概要

### 第1部：座学 富士山構成資産の魅力

#### ■日時

令和3年10月30日（土）9時～12時

#### ■場所

須走東災害対策センター

#### ■講師

○大高 康正 富士山世界遺産センター 学芸課教授

#### ■講義概要

##### 1. 世界遺産ってなんだろう？

- －世界遺産は、1972年にユネスコ（国際教育科学文化機関）で採択された「世界の文化遺産および自然遺産の保護に関する条約」を通称世界遺産と言っている。
- －2021年10月現在、世界遺産の条約に関わっている国、締約国は194か国（地域）。日本は1992年に初めて参加したので、それから世界遺産の登録が始まっているが、125番目。
- －世界遺産は世界の貴重な文化や自然遺産を登録して保護、保全する。色々な地域に色々な言語、習慣、文化、貴重な自然環境が残っているが、国の政情や財政状況、バックグラウンドが違いで必ずしも守られているわけではない現状を人類共通の財産として後世に継承していくことで始まった。
- －世界遺産は大きく3種類に分類される。
  - ①文化遺産：建造物、遺跡、文化的景観。富士山も文化遺産に登録されている。2021年現在、897件あり、日本は20件登録、関わっているものがある。
  - ②自然遺産：地形地質、生体系、生物生息地など。貴重な自然環境が残っている場所。世界の自然遺産は218件。日本は今年久しぶりに1件追加になり5件。
  - ③複合遺産：一つの世界遺産に文化遺産と自然遺産の両方が入っているもの。非常にハードルが高いこともあり、件数としては少なく、39件。日本には複合遺産はまだない。
- 合計すると2021年10月現在、1154件ある。そのうちの25件が日本の世界遺産。
- －国別の登録件数は、イタリアが58件で第一位、次いで中国、ドイツ、フランス、スペインの順。日本は25件中11位。世界遺産の締約国が194か国、その中で実際に世界遺産を持っている国が167か国。審議し世界遺産が決められている。
- －外国の世界遺産の文化遺産、例えば万里の長城、総延長が約2万1200kmに達しており、秦の始皇帝の頃に建設されたと言われている。現在のものは明の時代に1868年から200年で作られたものが伝わっていることになるそうだ。非常に有名な「メンフィスと墓地遺跡、ギザからダハシュールまでのピラミッド地帯」、世界遺産的にはそういう名前が付いている。エジプトにあるスフィンクスとピラミッドが含まれている文化遺産になる。一番上の右、「ラン・ヌイ国立公園」は、チリのイースター島にモアイ像が約1000体で、こういう文化が残っている地域も世界遺産に登録されている。
- －文化遺産にはいろいろな種類があり、「人間によって意図的に設計され作り出される景観」と紹介しているが、庭園や公園も含まれる。ヴェルサイユの宮殿は、1979年に登録されている。



- －世界遺産はポジティブなものだけではなく、ネガティブなものもある。負の遺産として日本の原爆ドームも後世に残すべきものとして伝わる。アウシュビッツ・ビルケナウ ナチスドイツ強制絶滅収容所も 1979 年に登録されている。自然遺産は聞いたことがあるところが多く含まれている。
- －アメリカにあるグランド・キャニオン国立公園は、長い年月をかけて川の流れて作り出された大きな谷。一番深いところで 1800m 程の深さがあると言われているが、何億年もかけて削り取られた地層を見ることができる場所である。右の下は、エクアドルのガラパゴス諸島。実際には大陸からは 1000 キロ離れてガラパゴス諸島には、天敵となる大型の動物がいないので、ゾウガメやイグアナのような独特の進化を遂げた貴重な動物がたくさんいる。自然遺産に登録されると、観光地となり、人口が増え、環境汚染や密猟など多くの問題が逆に出ることで、自然遺産が保護の対象の一つのきっかけになっていくという事例。
- －複合遺産にはペルーのマチュピチュの歴史保護区。ここが標高約 2400m の高い場所にあるインカ帝国の遺跡だが、元々インカの人々が伝えていた太陽神の信仰に関わる場所であることで、複合遺産になっている。右の下はオーストラリアのウルル、カタ・ジュター国立公園は複合遺産になっている。ウルル、カタ・ジュター国立公園は現地の言葉で英語圏ではエアズロックと言われている。画像はウルルという大きな一枚岩で、これがエアズロックになるが、高さが 350m 、周囲が 9.4km ある大きな 1 枚岩で、それ自体に自然遺産としての価値が見出されている。それ以外にアボリジニという現地の民族の聖なる場所になっていることで複合遺産に登録されている。この一枚岩は以前、登ることができたが、登ることに制限がつけられ登れなくしていると思う。これも世界遺産の環境を見ていく中で影響があるということで制限がついたものになる。
- －日本に 20 カ所世界文化遺産あるが、姫路城や原爆ドームは先ほど負の遺産ということで話したが、法隆寺や古都京都の文化財、白川郷の合掌造り集落など色々ある。今年、北海道北東北の縄文遺跡群が登録されている。それで 20 になった。
- －日本の 5 件の自然遺産は、左の上は縄文杉で有名な屋久島。右の上の白神山地はアジアで唯一ブナの原生林が残る場所として自然遺産に登録された。左の下の知床は、低い緯度に関わらず流氷が見られる場所として自然遺産に登録されている。右の下の 2011 年に登録された小笠原諸島は飛行機がなく、船で行く。東京の竹芝桟橋から 24 時間かけて父島に着き、そこから母島に 1 時間半くらいかけて行く。不便な場所であるからこそ貴重な自然環境が残る場所になる。真ん中に今年追加した奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島、鹿児島県・沖縄県にまたがっている。今年、追加されて 5 件になった。
- －一覧表は資料の通り。1992 年に日本が締結国に入った。最初に文化遺産が登録されたのが 1993 年になる。その時に法隆寺と姫路城が登録され、以降はほぼ毎年 1 件ずつ登録されている。世界遺産は世界でたくさん増えすぎていて、基本的に複数世界遺産委員会が上げられなくなっている。富士山は 2013 年に世界遺産登録されている。
- －明治日本の産業革命遺産－製鉄・製鋼、造船、石炭産業は、東北から九州までいくつか日本の産業革命に関わる場所が選ばれて登録されている。赤字は、静岡県に関わる場所。2021 年に今年、北海道北東北の縄文遺跡群が登録されている。
- －静岡県が明治日本の産業革命遺産に含まれているのは、韮山の反射炉が構成資産の一つになっているからである。江戸時代の終わり頃、反射炉が世界中に作られているが、もっとも完全な形で残っている事例だと言われており、幕末における西洋技術の日本国内での発達や伝播の証として評価され世界遺産の自然遺産に含まれている。

- －自然遺産のリストは資料の通り 5 件。1993 年の最初には文化遺産が 2 件、自然遺産が 2 件の 4 件が登録された。その時、屋久島と白神山地が登録され 2005 年、2011 年、2021 年に奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島が登録され、現在 25 件あり、文化遺産が 20 件、自然遺産が 5 件。
- －世界遺産として評価、登録されるには、世界遺産にふさわしい人類共通の素晴らしい価値を持っているかどうか審査される。「顕著な普遍的価値」を持っているかという言い方をされる。真実性があるのか、昔はそこにあったが、今はどういうものか分からないものは登録には至らない。完全性とはそういう意味で、今、残っているかどうか。首里城は火事で全焼したが、その前に世界遺産に登録されていて、首里城はなくなったが、完全性というのは、その当時あったものが完全に復元できれば世界遺産が取り消されることはない。首里城は登録されてから、どういう形の建造が行われたかが調査されているので完全な形で復元できる。完全な形で復元できれば、必ずしも世界遺産を取り消されるとか、認められないということはない。首里城は非常に不幸な事件、火事だったが、極力現在および将来にわたって効果的に保護していくこと。人為的な災害も含めて自然災害でなくなることもあるが、極力ないように管理について計画的に体勢を整える。それが大丈夫だと認められると登録される。
- －「顕著な普遍的価値」で「世界遺産条約履行のための作業指針」を文化庁が資料を出している日本語訳である。上が文化遺産に関わる登録基準に関わるもの 6 件。下側の水色が、自然遺産に関わる顕著な普遍的価値の登録基準を満たすものになり、4 件ある。この中に関わるようなものが説明できると世界遺産になる。赤で示した富士山の登録する上で「顕著な普遍的価値」の登録基準の 6 つあるうちの 3 つ目(赤)と 4 つ目(青)と 6 つ目(赤)にあるが、この 3 つに富士山関わるということ登録の推薦を日本が出している。実際は、4 番目の青で示したものは関わらないと言われ、最終的には 3 番目と 6 番目に関わるということが認められ、世界遺産に登録された。この基準を満たすものがあるということで推薦証を出す、その中に構成資産が含まれる。富士山の構成資産とはこういった登録基準の中に関わるようなものがあるということを示している。
- －世界遺産に登録されても常にその世界遺産を脅かすような危機がある。台風や地震などの天災、戦争や大規模工事、観光開発、密漁、盗難などの人災がある。登録された後もまだ危機が続いている可能性があるものは、「危機遺産リスト」があり、登録される。正式名「危機にさらされている遺産リスト」という名前だが、今、52 件がこの危機遺産リストに含まれる。文化遺産 36、自然遺産 16 なので、割合から 8 割ぐらい文化遺産がある。やはり天災や戦争、観光開発、密漁、盗難などの影響常に受けるので、自然遺産の方が多い。世界の国々の協力で遺産の危機がなくなったら、危機遺産のリストから除外されていく。
- －世界自然遺産の登録第 1 号は 1978 年のガラパゴス諸島だった。ガラパゴス諸島は非常に貴重な動植物が残っている。ダーウィンの進化論がここで着想を得たとか…。登録されると、この島を訪れる方が増える。島の環境が悪化する。また、知られていくと密漁も増える。それにより、第 31 回世界遺産委員会(2007 年)で「危機遺産リスト」に登録された。環境はむしろ厳しくなっていることから、特に気をつけて守ることとなった。その後、エクアドル政府が中心となり、エコツーリズムの体制を整え、島に入るには料金を徴収する、必ずガイドが付けるなどの努力があり、第 34 回世界遺産委員会(2010 年)の時に「危機遺産リスト」から除外された。
- －世界遺産委員会は新しい世界遺産を決めるだけでなく、今までの登録がどういう風に守られているかの審査している。富士山は 2013 年に登録された後に保全状況報告書を出して認められている。「危機遺産リスト」には入っていないが、場合によってはこういうケースもある。

- ーガラパゴスは「危機遺産リスト」から除外をされ、ひとまず落ち着いているが、オマーンの「アラビア・オリックスの保護区」は世界遺産の委員会で世界遺産初の登録取り消しになった。これは、登録された後に登録の範囲内に非常に有望な地下資源があることが発見され、オマーンの政府が保護区を縮小し、資源の発掘をすることを選んだ。その結果、保護される範囲が3分の1に縮小し、それを受けてユネスコでオマーンは保護区の保全の意思がないと判断をして取り消しをした。
- ー次に紹介するのは2004年に「ドレスデン・エルベ渓谷」という旧東ドイツのドレスデン宮殿や産業遺産が評価され登録されていたが、行き来をする上で交通渋滞が慢性的に起こり、2006年にこれを解消するためにエルベ川に橋をかける計画を立てた。橋をかけるとそれまでの景観が守られないので、登録されてから2年後の2006年に危機遺産登録をされる。しかし2008年の世界遺産委員会の時に、本当に橋を作ったら登録を抹消すると注意が出たが、結局工事を中止せず、住民の利便性を追求したので、2009年の世界遺産委員会で世界遺産の景観の価値を損なうことで、2例目の登録抹消になった。今年もイギリスのリバプールが世界遺産登録抹消になっている。事前に注意があるが、それに対応すると危機遺産に登録されたものが消されて元の状態に戻るが、何も努力が図られない、改善されないと判断されると抹消されることがある。
- ー富士山は、2012年1月に日本政府から正式版の推薦証がユネスコに出され、ユネスコの諮問機関イコモスが推薦書にある中身をチェックに来る。イコモスによる調査、書類の中身の審査ももちろんされた上で、現地調査が行われる。平成24年8月29日～9月5日に現地調査が行われ、イコモスによる評価が翌年の4月30日に評価結果の勧告がされる。
- ーイコモスの評価結果が、世界遺産委員会の決議に直接つながる。評価はこの4区分になる。「①記載」が世界遺産の一覧表に記載するもの。「②情報照会」は、もう少し追加情報欲しいことで、その年の審議には回さない次回に回すもの。「③記載延期」は、全然足りないと言われるもの。記載延期を受けるとかなり時間がかかる。「④不記載決議」は、本当に例外的な場合除いてもう1回出し直すことができなくなる。②や③であれば書類を整えればもう少し猶予があるということだが、④がついてしまうとほぼ永久的に出すことができなくなる。
- ー実は富士山が登録された2012年は、日本政府からは2件が推薦されていた。「富士山」と「武家の古都 鎌倉」である。現地調査と書類の審査があり、4月30日の勧告では、富士山は三保の松原を除き「記載」。武家の古都 鎌倉は、「不記載」の評価であった。これを受けて、鎌倉は取り下げないで正式に世界遺産委員会にかけるとイコモスの勧告が優先されるので、不記載のまま世界遺産委員会にかけて逆転で登録されることはほぼないので、推薦を取り下げた。将来、もし鎌倉にもっと貴重な文化的なものが見つかった時、一度不記載になると再度出し直すことができないので、取り下げた。富士山についてはこのままイコモスの評価が「記載」と出たので、6月の第37回の世界遺産委員会にかけられ、そこで審議がされる。
- ー第37回の世界遺産委員会が2013年にカンボジアのプノンペンで6月16日から27日にかけて行われていく。こちらが世界遺産委員会の時の画面の写真。
- ー当初、三保の松原を除外するという記載がイコモスの勧告でされていたが、6月の審議の段階ギリギリまで三保の松原の除外を何とかできないかという運動を行い、登録の段階ではイコモスの勧告で除外されていた三保の松原の部分が復活して、それも含めて登録される。世界遺産委員会の議場で各国から三保の松原も入れるべきじゃないかという意見が逆に出され、それを受けて富士山は6月22日の午後5時28分に無事に登録になった。三保の松原は現地調査では富士山から遠いのではないかということを言われ、勧告には含まれなかったが、議場の場では復活した。富士山が構成

資産を説明する上でも重要になってくると思う。

- 富士山の文化遺産としての素晴らしい価値は「顕著な普遍的価値」になるが、実際の説明は「信仰」と「芸術」という2つのテーマをキーワードとした。「信仰」とは何かを信じて祈ることで、「芸術」は美術、文学、詩など様々な人間の活動によって生み出される作品になるが、それが美しい富士山の景色や自然の恵みが長い歴史を通して様々な信仰や芸術を生み出し、今もわれわれ日本人の心のよりどころになっていると説明をしている。世界文化遺産富士山は、信仰の対象と芸術の源泉という副題の説明であり、そこが実は最後に三保の松原が登録されることにも関わる。
- 富士山の顕著な普遍的価値は、信仰の対象に関わる25の構成資産が富士山の山域、登山道や浅間神社の境内とか霊地、巡礼路などである。芸術に関わるのは、富士山域に対する富士山の山を見る展望地点とか展望をするための景観といった場所になる。そこを含めて構成資産に含まれている。三保の松原は、芸術の源泉として富士山を眺望できる非常な重要地点で、そこで芸術作品が生み出されているので、そこが入らないともう芸術の源泉の部分というのが弱くなる。関係ないことはないという評価をいただいて三保の松原は復活をした。ただ、推薦書の中では顕著な普遍的価値を評価する評価基準の3と4と5が、富士山に関わることで、登録を出していたが、評価基準の4の世界的な名山としての景観の類型の顕著な事例は必ずしもない。富士山と同じような形の山は富士山だけではないので、その部分は富士山に限らないと言われて入らなかった。ただ評価基準の3と4には間違いなく富士山は関わることで登録をされている。
- 富士山の周辺のマップを見るとオレンジで示している部分と薄い黄色のような色で示している部分がある。黄色と水色で色づけが構成資産の場所。富士山周辺に25カ所が含まれている全部の範囲が世界遺産ではなく、オレンジで示している部分が世界遺産の構成資産の直接的な範囲になる。山域の部分が多く含まれているが、実際に登録されている構成資産の範囲はその構成資産の周辺だけ。ただ、黄色の部分は必ずしも構成資産の範囲の中だけを守っていればその中が守られるわけではない。その周辺の緩衝地帯の部分も含めて構成資産の範囲になる。構成資産はコアゾーン、バッファゾーン(緩衝地帯)という。こういった形でその周辺も一応緩衝地帯として指定はされている。
- 富士山の周辺に点々と構成資産があるが、一覧表にするとこのような25カ所となる。ピンクと黄色と青で構成資産を色分けしている。ピンクの部分は山梨県に関わるところで、黄色の部分は静岡県に関わる部分。水色は富士山域の部分、山域の部分になるので両県にまたがっている。25カ所構成資産があるが、1の富士山域についてはさらに9つの構成要素に分かれている。一つの構成資産と同じような意味合いはあるので、実際は25カ所構成資産があるが構成要素の部分も含めて富士山の世界遺産の25カ所はある。皆さんが現場を歩いたりすると、これ以外ももっと貴重なところが落ちてない？所も出てくるかと思うが、その部分が登録にあたっての真実性や完全性というのを説明する上でなかなか整わなかった部分だ。その部分が含まれていなくて、このような25カ所が選ばれている。ただ、この25カ所というのは信仰の対象に関わる場所と芸術の源泉に関わる部分が含まれている。

## 2. 信仰の対象 富士山

- 信仰の対象としての構成資産を紹介したいと思う。1の富士山域というのは、主に言うと馬返と言われている中間地点、1500m から上くらいが含まれている。9つの構成要素に分かれ、山頂の信仰遺跡群や富士山の山頂に至る4つの登山道、北口本宮富士浅間神社、本栖湖・西湖・精進湖。
- 静岡県側の構成資産は8つある。その多くは信仰に関わる。三保の松原は芸術の源泉に関わる部分になる。

- 山梨県側も 16 の構成資産があるが、吉田口登山道の起点となった北口本宮富士浅間神社、忍野八海、船津胎内樹型、白糸の滝も文化・信仰に関わるとして登録されているが、実際は富士山の自然が作り出した所。右下の御師住宅は富士山を訪れた方が宿泊をしていたところで、この須走の町も登山道の起点になり多くの方が全国各地、主に関東からやってきて、この地域の御師の住宅に宿泊をして、富士山に登っていく拠点になっていた。
- こちらは構成資産の山宮浅間神社だが、富士宮市の構成資産で、いわゆる神社にある建物が無い。遥拝をする、富士山を直接拝めるような場所に作られている。富士山の噴火の活動が活発だった頃、富士山の噴火を鎮めてもらう場所として作られている。富士山を遠くから拝む、遥拝の場所だったと言われている。その場所が社伝によると、700 年初めぐらい、大同元年にその山宮という場所がここから山手の方に何キロか上がった場所にあったが、そこから里の方に移ってきて、お社を完備した浅間大社のような形になった。
- 浅間大社は富士山の御祭神の木花咲耶姫をお祀りしている神社になるが、もともとその浅間大神という富士山の噴火、富士山の御祭神を鎮めるために作られているものが浅間神社になる。
- 16 世紀には「絹本著色富士曼陀羅図」とその宗教画も作られているが、こういうものを見ても沢山の方が富士山に列をなして登っている様子も書かれている。
- これは表口、富士宮口の旧の登山道。大宮村山口登山道から登っている絵画になる。富士山の登山道としては表口、須山口、須走口、吉田口とあり、これらが世界遺産の構成要素に選ばれている。富士山の信仰というのは究極的には噴火口への信仰になる。富士山には仏様・神様が住まわれている場所があり。そこが富士山の山頂に捉えられていた。旧暦、明治時代に入って新しい暦になる前は、6 月 1 日が富士山の開山日で、室町時代などは 6 月のひと月ぐらいになるようだが、江戸時代になるとさらに伸びていき、旧暦の話だが 4 月中旬から下旬くらいまで富士山に開山期間というのが設けられていた。その時期にたくさんの方がやってきて富士山の頂上に登っていく。
- 山頂には噴火口に八葉九尊という仏様が祀られていて、噴火口の中にいるのが中心の神様仏様で、それに加えて山頂の周囲にピークが今もあるが、そこに 8 つの仏様がいて合わせて八葉九尊という。そういう聖なる場所に行って、噴火口の底にいる中心の仏様をお願いをして帰ってくるというのが信仰登山の昔の登山のスタイルになる。昔の人も夜行登山はしていたようだが、山頂で朝日を見るわけではなく、江戸時代の富士講の方の日記を見ると、8 合目、9 合目ぐらい(主に 9 合目ぐらいが多い)で朝日が上がってくるところを見ていて、明るくなってから山頂に着く。山頂の周囲に 4 つの登山道から上がってきた拝所、山頂の噴火口を拝む拝所が設けられ、そこからのお賽銭を噴火口に向けて投げて、御祭神をお願いをして帰ってくるというのが昔の信仰登山のスタイルになる。暗いうちに上がってきしまうと噴火口から落っこちてしまうので危ないので、明るくなってから上がってくるというスタイルになっていると思う。
- 御鉢巡りという山頂の周囲 3 キロぐらいを 1 時間半ぐらいかけて回るものを、この八葉の峰々を回るので八葉巡りが御鉢巡りになっていくと考えられている。
- ご来光も、今は山頂で朝日を見る瞬間をご来光という風に言っているが、ご来光は元々「御来迎」という字を当てていた。阿弥陀如来がお迎えに現れてくれる場面のことを御来迎と言う。御来迎＝阿弥陀如来になる。富士山のような山岳地域であればブロックン現象も影響していると思うが、そういう場面に出くわすとご来迎だというような信仰になっていき、それが形を変えて朝日が上がってくるご来光になる。現在、昔は朝日を見るというのが山頂での一つのイベントではないので、御来迎と言いつつ言っていたものが光という字に代わってくるのかと思う。

### 3. 芸術の源泉 富士山

- 芸術について本栖湖は、岡田紅陽という写真家の湖畔の春という写真がまったくこれと同じアングルで撮られていて、千円札にも使われていて、芸術作品の源泉になっている。葛飾北斎の富嶽三十六景も富士山の景観を色々なところから書いた作品になる。
- これは三十六景の神奈川冲浪裏になるが、ドビュッシーというフランスの作曲家の交響詩「海」という楽譜の表紙は、肝心な富士山がなくなってしまうているが、海という曲をインスピレーションする上でこういった絵画作品がもうヨーロッパに伝わっていてインスピレーションを与えているということも確認できる。三保の松原自体は万葉集以降多くの和歌の題材となっていたり、謡曲羽衣という能の演目になったりしているが、古くからの三保の松原を手前に配した構図が富士山の絵の基本になっていく。三保の松原から見た富士山だが、これは歌川広重の駿河三保の松原の絵になる。三保の松原があつて左の方に興津の薩埵峠があり、奥に富士山が見えるという、こういった形が一つの絵画の定型になっていく、パターンになる。
- これもただ松が並んでいるだけの絵画で、奥に富士山が書いてあり、手前に海がある構図のものがあると、もうそれが三保の松原だということで捉えられるくらい絵画の一つの形として著名だったという場所になる。富士山を描く上で三保の松原というのは古くからそういう芸術作品の生まれる景観として重要な場所だということが評価を受けて登録をされている。御穂神社の前から神の道というお祭りの時に通る道があり、その向こう側に羽衣の松があり、三保の海岸がある。